

施設見学会を 開催

東日本重粒子センター



山形大学医学部
東日本重粒子センター長
岩井 岳夫
Iwai Takeo

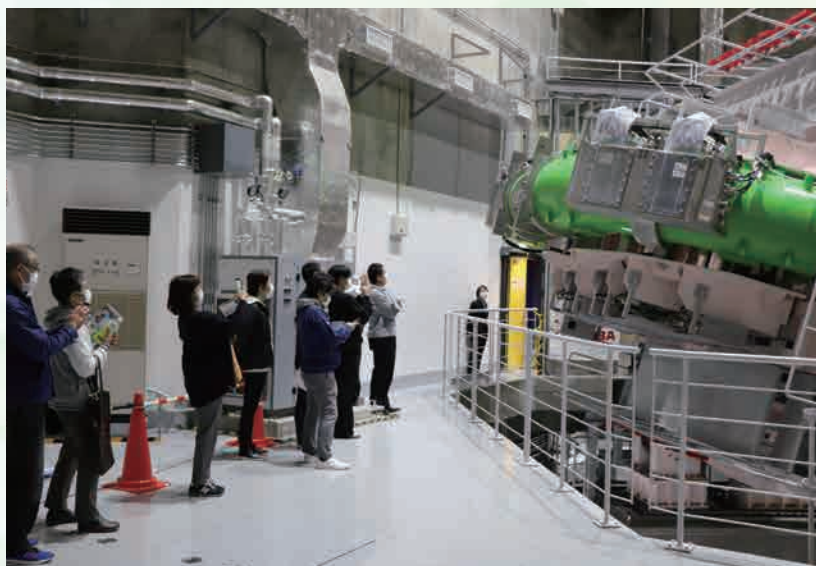
令和6年11月9日に、開設以来初めてとなる一般の方を対象とした重粒子センター施設見学会を開催しました。事前に申し込みされた約400人が重粒子センターを訪れ、地下に設置された大型のシンクロトン加速器や、超伝導回転ガントリーが回転する様子を熱心に見学していました。年齢層も1才から88才まで大変幅広く、県内からの参加者に加えて約2割は関東地方や遠くは静岡県からも参加があり、いろいろな視点から興味をもっていただきました。当日はスタッフに対して多くの質問が寄せられ、中には鋭い質問でスタッフが感心する場面も。

当日は並行して中学生以下のお子さん向けにこども物理教室を開催し、治療で使用する重粒子である炭素の原子核を小さい金属球に見立てて、金属球の勢いと方向を電磁石でうまくコントロールすることによって標的を破壊する重粒子線治療の原理についてわかりやすく説明しました。参加したお子さん達にも大変好評で、「とてもわかりやすかった」「いろいろな方向から打って、がんをやっつけるのがすごいと思った」などの感想が寄せられました。

この他にもスタンプラリー、キッチンカー、レモネードスタンドなどを用意し、とても賑やかな1日になりました。このような催しを通じて、今後も東日本重粒子センターが開か

れたセンターとして皆さんから受け入れられるよう努めてまいります。一般の方を対象とする施設見学会は今後毎年11月頃に開催する方針としており、今年は11月8日（土）に開催します。詳細は東日本重粒子センターホームページで告知いたします。

令和6年度は684名の患者さんに重粒子線治療を施行し、令和6年度末時点で総計2,235名の患者さんが当センターで治療を受けました。昨年度は前年度同様前立腺癌の患者さんが最も多く、続いて肝臓がん、膵臓がんという順番になりました。目立った変化としては令和6年6月から保険適用された肺癌が前年度の3倍以上に増加したことでした。また県別では秋田県が前年度46件から60件に依頼数が増加し、令和6年2月に秋田市で開催したセミナーの効果を実感しました。令和6年度は青森市でセミナーを開催しましたが、令和7年度は9月に盛岡市でセミナーを開催します。また5月22日にはオンラインセミナーを開催し、約500人の視聴者に対して、難治がんに対するアプローチについて講義を行いました。今後もこのような広報活動を通じて、東北全体に重粒子線治療と重粒子センターを周知し、東北地方のがん治療に貢献していきたいと考えています。



ガントリーが回転するところを見学する参加者の皆さん



こども物理教室の様子



約350人が参加した青森セミナー（ホテル青森、9/30）



山形大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センターが 開設しました

脳梗塞や脳出血などの脳卒中、心筋梗塞・大動脈解離・心不全などの心疾患は、健康を脅かす重大な疾患であり、社会的にも大きな影響を及ぼしています。山形県においても、これらは死亡および要介護の主要な原因となっています。令和6年度に、山形大学医学部附属病院は、山形県と密接に連携して、国から脳卒中・心臓病等を取り巻く様々なことへの支援を総合的に行うセンターとして選定されました。同12月に、「山形大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター」を開設し、同時にホームページも立ち上げました。

当センターは、山形大学医学部附属病院地域医療連携センター内に設置され、医師、看護師、社会福祉士、理学療法士、薬剤師及び関係する多職種がお互いに連携して活動します。脳卒中チームと心臓病チームの両面で機能しますが、運営会議には、山形県健康福祉部、学外協力病院等からも委員を委嘱しており、広い視野と医療の現場に即した取組を心がけています。



実際の活動をご紹介します。まず、脳卒中・心臓病等患者さんの家族への相談支援のために、窓口を地域医療連携センター内に設置しました。対面、電話での相談を主に、社会福祉士、看護師が中心となり対応いたします。脳卒中では、専門領域部会として、県内関

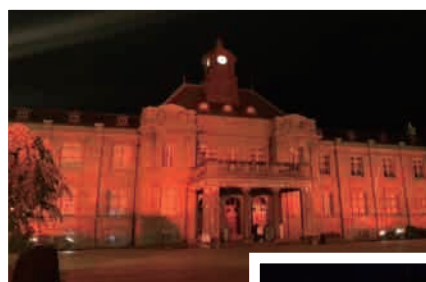


センターの多職種メンバー（一部）

係医療機関の社会福祉士を構成員とする「山形県脳卒中相談窓口連携会議」を設置し関係医療機関のネットワーク構築を図り、連携を強化する体制を構築していきます。また、地域住民を対象とした脳卒中・心臓病等に関する情報提供、普及、啓蒙活動を行います。本年は、心臓病の市民公開講座を8月30日に予定しており、脳卒中も準備中

8月10日は
「健康ハートの日」

山形県郷土館『文翔館』
旧県庁公舎
ハートの色を象徴する赤に
ライトアップ
(令和6年)



10月29日は
「世界脳卒中デー」

山形県郷土館『文翔館』
旧県庁公舎
世界脳卒中デーシンボルカラーインディゴ・ブルーに
ライトアップ(令和6年)



です。県民の理解啓発を図るために、ライトアップを企画しており、健康ハートの日（8月10日）・世界脳卒中デー（10月29日）に合わせて、山形大学医学部附属病院の屋上看板の病院名や、文翔館をそれぞれライトアップしたいと思っています。さらに、地域医療機関、医療従事者を対象とした研修会や勉強会の開催、地域医療機関やかかりつけ医との連携も企画しています。センターはまだ設立したばかりですが、今後、患者さんやご家族、地域住民、医療従事者など幅広い方々への支援を行うことにより、地域における総合的な脳卒中、心臓病等の医療の向上を図ることを目指してまいります。当センターをご理解いただき、是非、ご活用いただきたいと思います。

③ Well-Being YUアプリの紹介

Well-Being YUアプリで始める、自分らしい健康習慣



山形大学 Well-Being 研究所
副所長・公衆衛生学・
衛生学講座 教授

今田 恒夫

私たちの暮らしの中には、健康に大切なヒントがたくさんあります。朝ごはんをきちんと食べた、少し体を動かした、笑顔で「おはよう」と言えた——。そんな毎日の小さな行動が、未来の元気な自分をつくっていきます。

「Well-Being YU（ウェルビーイングユー）」は、山形大学が開発したスマートフォンで使える健康アプリです。山形大学が20年以上にわたって実施してきた「山形コホート研究」の成果を活用し、みなさんの健康寿命の延伸とWell-Being（身体と心の健康、人とのつながり）を支援する目的で開発されました。毎日の生活の中で「ちょっと意識してみよう」と思えるような習慣づくりをサポートします。

令和6年12月に一般向けにリリースされ、令和7年4月末時点では主に県内の約1、100名が利用中で、春からは県外にも利用が広がっています。

アプリの機能として、健康診断の結果を入力すると、今後5年間のがん・心臓病・脳卒中・要介護などの発症リスクや、肝臓の状態（脂肪肝など）を知ることが出来ます。早めに気づくことで、病気の予防にもつながります。

また、「まいにち記録」という機能では、その日の食事・運動・気分などを入力すると、AI（人工知能）があなたに合わせたアドバイス——「いい調子ですね」「今日はちょっと休んでみましょう」など——を届けてくれます。週に一度は、医学部の専門家からのアドバイスもあり、安心して取り組みます。

さらに、医師、歯科医師、管理栄養士、理学療法士、吉本興業のお笑い芸人などによる健康動画も配信しており、楽しみながら健康維持に役立つポイントを知ることが出来ます。

そして、当アプリのアンバサダーに、スピードスケートのオリンピックメダリスト・加藤条治さんが就任しました。山形県出身の加藤さんは、「日々の積み重ねが未来をつくる」というメッセージとともに、健康づくりの大切さをみなさんに伝え、応援団として登場します。

Well-Being の形は一人ひとり違いですが、「少しでも意識すること」から始めれば、誰でも今日から健康づくりの一步を踏み出せます。「Well-Being YU」と一緒に、あなたの毎日に小さな変化を加えてみませんか？

QRコードから読み込んで、ぜひ始めてみてください。きっと、未来のあなたを笑顔にしてくれます。



アプリQRコード



アプリ画面（イメージ）



今田恒夫 教授



アンバサダー 加藤条治さん

キメラ抗原受容体T細胞 (CAR-T) 療法

山形大学医学部附属病院では、難治性血液がんに対する最新の細胞治療であるキメラ抗原受容体T細胞 (CAR-T) 療法を実施しています。CAR-T療法は、患者さんご自身のリンパ球(T細胞)を用い、がん細胞を特異的に認識・攻撃できるように遺伝子改変を施したうえで再び体内に戻すという、革新的な治療法です。

この治療法は、従来の薬剤に対して抵抗性を示す大細胞型リンパ腫や多発性骨髄腫、若年性急性リンパ性白血病に対して高い効果が報告されており、現在国内では、それらの再発・難治性血液がんを対象として使用が認められています。

CAR-T細胞療法の実施には、高度な細胞管理体制と、特有の副作用に対応できる医療体制が求められるため、全国でも限られた医療機関のみで実施が可能です。現在のところ東北地方では、本院を含めた2施設のみが、大細胞型リンパ腫、濾胞性リンパ腫、多発性骨髄腫に対応したCAR-T療法の全てを実施可能な施設として認定されています。当院では若年者急性リンパ性白血病に対するCAR-T療法の準備も進めており、まもなく提供が可能となる見込みです。CAR-T療法の適

応疾患は今後拡大していく可能性があり、当院もその発展に向けて積極的に取り組んでおります。

山形大学医学部附属病院は、地域に根ざしながらも世界水準の最新医療を提供し、難治性血液がんに苦しむ患者さんに新たな希望を届けられるよう努めてまいります。



製造したCAR-Tを投与するための準備



CAR-Tに加工するための細胞を採取している場面

人工関節手術支援ロボット「MAKO システム」の導入

変形性関節症に対する治療として、日本では、人工膝関節全置換術 (TKA: Total Knee Arthroplasty) は年間 9 万件、人工股関節全置換術 (THA: Total Hip Arthroplasty) は 7 万件行われています。2024 年 7 月に、大学病院としては、北海道・東北で初めて、県内では唯一、手術支援ロボットである MAKO システムを導入しました。この MAKO システムでは、患者個々の解剖学的特徴に基づいた最適で精密な手術計画を立てられ、術中にはインプラント設置位置や角度をリアルタイムで確認でき、計画通りの正確な手術が可能となります。また、軟部組織への侵襲も少なく、より安全な手術が可能となりました。2025 年 3 月時点で、TKA 27 件、THA37 件を行いました。

ロボット支援下 THA (図 1) では、人工関節の設置角度や脚長補正の正確性が飛躍的に向上しました。精密な術前計画・正確な術中確認および高い設置精度により、THA の最大の合併症の一つである脱臼の発生を予防することが可能となり、さらに長期成績の改善も期待されます。TKA では、近年、患者生来の関節面を再現することで、より自然な膝キネマティクスや軟部組織バランスを得ることを目指す kinematic alignment 法が注目され、山形県では全国に先駆けて行ってきました。手術支援ロボットの導入により、術中

に患者個々の軟部組織バランスにあわせて適切な骨切りとインプラント設置を行う functional alignment 法が可能となり、より患者さんに適した手術が可能となりました (図 2)。さらなる成績向上および患者満足度の向上が期待できます。手術適応の患者さまがおられましたら、ぜひご紹介します。



図1. ロボット支援下THA



術前Xp

術後Xp



図2. ロボット支援下TKA



術前Xp

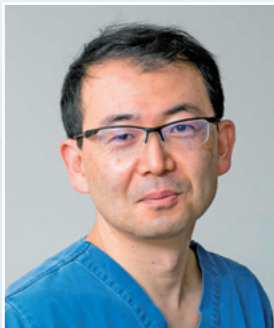
術後Xp

術中写真

⑤ 新任教授のご挨拶

新任教授のご挨拶

①出身地 ②出生年 ③出身校 ④趣味等

山形大学医学部
麻酔科学講座 教授

外山 裕章

TOYAMA Hiroaki

①神奈川県 ②1971年 ③東北大学 ④釣り（ヘラブナ&溪流ルアー）&魚の飼育、
自転車（マウンテンバイク）、工作&日曜大工、ピアノの練習（下手）

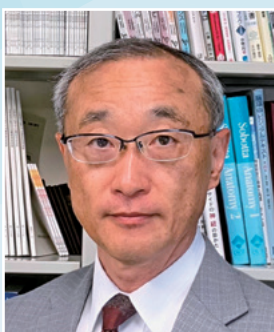
大学入学を機に東北に移り、風土に惚れてそのまま定着しました。大学生から医師15年目くらい迄は11月～4月は山形蔵王、5月～8月は月山スキー場に毎週通いました。前職場の東北大学では、肺移植を中心に、心移植、肝移植等の臓器移植の麻酔管理を担当していました。

医学教育においては、月山の深雪の重さに耐えるブナの木々の様な粘り強さを身につけた医師を育成し、その様な医師が集う、粘り強さと活気に満ちた月山の深緑のブナ林の様な麻酔科学教室を山形大学に創生したいと願っています。

また、職場環境を整備し、麻酔科医が定着する、働きやすく仕事に専念できる、明るい未来を感じられる、透明性の高い講座の構築を目指していきます。

当講座では、AIの麻酔科診療への応用、人工呼吸、酸素需給バランス、アナフィラキシー、筋弛緩薬の血行動態、疼痛モニタ等に関する研究を行っています。

講座運営の理念は、「衣食足りて榮辱を知る（管仲）」と「一隅を照らす、此れ即ち国宝なり（最澄）」です。生活の安定と充足により講座員に心のゆとりを作り、仕事に対する向上心を生み出し、明るく光り輝く人材の育成に取り組んでいます。地域を照らす人材は、此れ即ち国宝です。このような人材を生み出す、魅力ある医局を創生し、麻酔科医を定着させます。麻酔科医の充足は山形県の外科診療を衰退から守り、山形県の医療の維持・向上という好循環を生み出します。

山形大学医学部
臨床看護学講座 教授

諏佐 真治

SUSA Shinji

①新潟県 ②1969年 ③山形大学 ④マラソン・登山

この度、2024年6月1日付で山形大学医学部看護学科 臨床看護学分野の精神看護学の教授を拝命いたしました諏佐真治と申します。これまで医学部内科学第三講座の糖尿病・内分泌代謝内科学分野において、糖尿病をはじめとする内分泌・代謝疾患の診療、教育、研究に携わってまいりました。今後は、看護学の視点から、患者さんの生活と向き合いながら、臨床看護の質の向上に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は内科学第三講座において足掛け30年間勤務し、最初の10年間は、佐々木英夫教授のもと、大門眞先生の指導を受けながら研究・臨床に従事しました。その間、急性ポルフィリン症の研究やがん研究会がん研究所で大腸がんの研究、衛生学講座で高血圧に関わる研究など多彩な経験をさせて頂きました。その後は加藤丈夫教授の下でスタッフとして、教育・

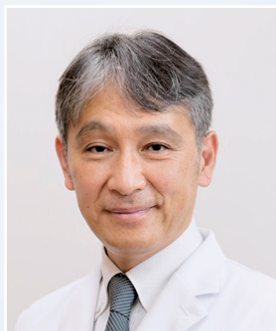
研究・診療に取り組みました。後年は、石澤賢一教授のもと、診療だけでなく診療体制の整備や医局運営など、組織マネジメントにも関与してまいりました。

これらの経験を通して、病とともに生きる患者さんの姿に深く触れ、医療の質を高めるためには、医学と看護学が互いに学び合いながら連携していくことが不可欠であると実感しています。今後は、臨床看護学の教育・研究を通じて、看護職の皆さんが専門性と実践力を高め、地域医療を支える力を育むことに貢献していきたいと考えております。

山形の地は、私が医師として、また教育者として育てていただいた場所であり、今後もこの地で医療と教育に尽力できることを大変光栄に思っております。今後とも、どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶

①出身地 ②出生年 ③出身校 ④趣味等



山形大学医学部
放射線医学講座 放射線腫瘍学分野 教授

小藤 昌志

KOTO Masashi

①東京都 ②1970年 ③東北大学 ④ドライブ 温泉巡り

2024年7月1日付で放射線医学講座放射線腫瘍学分野教授に着任いたしました小藤昌志です。私の放射線治療医としての歩みは東北大学放射線治療科からスタートしましたが、2000年頃から黎明期の重粒子線治療に関わる機会に恵まれ、2010年に重粒子線治療のパイオニアである千葉の放射線医学総合研究所（現量子科学技術研究開発機構）に赴任し、これまで主に頭頸部腫瘍に対する重粒子線治療の研究、臨床に従事してまいりました。実家が東京ということもあり、東北地方に戻る予定はなかったのですが、大好きな重粒子線治療が山形大学に導入されたご縁で山形大学に参りました。

重粒子線治療は、他の治療では治療困難ながんにも効果が期待できる魅力的な治療法です。有効性が確認され、保険適用になったがんも増えてきました。北日本の重粒子線治療施設は山形大学が唯一ですので、山形県のみならず、東北地方

の患者さんに広く重粒子線治療の機会を提供すべく尽力しています。

当教室では、重粒子線治療に加え、通常の放射線治療、最近注目を集めている核医学治療にも取り組んでいます。放射線治療については現在最新鋭の治療装置の導入を進めており、より高精度な放射線治療を提供できる体制を整えています。核医学治療はがん細胞特異的に作用する放射性薬剤を体内に投与する治療法であり、全身に広がったがんに対しても有効です。新薬の開発が世界的に行われており、今後その重要性が増していく治療法です。

このような全国屈指の充実した治療環境を最大限活用し、患者さんへ最高の医療をお届けできるよう、教室員一同、臨床・研究・教育に邁進してまいります。どうぞ今後とも皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



山形大学大学院医学系研究科 医学専攻
生理学講座 教授

山崎 良彦

YAMAZAKI Yoshihiko

①神奈川県 ②1969年 ③山形大学 ④神社・仏閣・史跡巡り

2024年10月より生理学講座を担当させていただいている山崎良彦です。私は神奈川県で生まれましたが、幼少期よりほとんどの時期を東北地方で過ごしておりまして、生粋の東北の人間だと思っています。これまで多くの方々に支えられながら教育・研究に取り組んでまいりましたが、今後は本講座の責任者として、その発展に尽力していく所存です。

生理学は、生命の基本的な仕組みの解明を目指す学問であり、医学の根幹を成す重要な分野です。医学部の学生には単なる知識の暗記ではなく、学ぶ事象の本質を捉え、様々な場面で応用できる力を身につけてほしいと考えて講義しています。また実習を通じて「なぜそうなるのか？」という科学的思考を養い、自ら問いを立てて解決する力を育んでもらいたいと考えています。研究面では、これまで、神経科学を中心に研究を進めてまいりました。特に、脳機能を支えるオリゴ

デンドロサイトに注目し、その役割や神経回路との関係を探る研究を行っています。オリゴデンドロサイトは、神経細胞の軸索をミエリン鞘で包み、情報伝達を高速化する働きを担う細胞です。この細胞の異常は、いろいろな精神神経疾患の発症に関与しています。オリゴデンドロサイトの未知の働きを解明し、その役割をより深く理解することで、神経科学の発展に貢献したいと考えています。また、基礎医学研究に興味を持つ学生や若手医師が、自由に研究に取り組める環境を整え、次世代の医学研究者の育成にも努めてまいります。

今後も教室のメンバーと緊密に連携し、それぞれの強みを生かしながら互いに支え合い、そして、山形大学医学部全体の発展に貢献できるよう努力してまいります。皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

7 新任教授のご挨拶

新任教授のご挨拶

①出身地 ②出生年 ③出身校 ④趣味等



山形大学医学部
歯科口腔・形成外科学講座 教授

石川 恵生

ISHIKAWA Shigeo

①栃木県 ②1976年 ③東北大学 ④ウオーキング

2024年12月1日より山形大学医学部歯科口腔・形成外科学講座の教授を拝命した石川恵生と申します。私は歯科医師免許取得後から一貫して山形大学に関連した施設で臨床、研究、教育に従事してまいりました。歯科医師として育てていただいたこの山形の地に、少しでも恩返しができればと願っております。

これまで私は、口腔がんの早期発見を大きな研究の柱として行っておりました。具体的には、唾液による口腔がんのスクリーニングに関する研究や人工知能を使った口腔病変画像の判別機器の開発、また病変独特の硬さを再現した触診モデルの開発など、社会実装を意識した医工連携研究を進めてまいりました。今後は、これらの成果を実用化し、口腔がんの早期発見と死亡率低下に寄与することを目指してまいります。また山形県民の皆様のご協力により蓄積された山形コ

ホート研究データを活用し、口腔と全身との関係性について、疫学的アプローチによる研究も進めてまいりました。今後もこの貴重なデータを大切に活用させていただき、山形県民の皆様に新たな知見等を還元できるように精進してまいります。

また臨床面では、咬合に関する外科療法に注力してまいりました。具体的には、骨格的な咬合異常をきたす顎変形症や、何らかの疾患等で顎を欠損した顎欠損症に対する治療です。これらの治療には、山形県で唯一ともいえる精密な3Dプリンター・3Dシミュレーション技術を活用しており、アナログではなく、精度の高いデジタルな治療計画を立案することで、より予知性の高い手術を行うことが可能になりました。今後もこの技術を大きな強みとして、診療に取り組んでまいります。なにとぞ今後ともよろしくお願いいたします。



山形大学医学部
看護部長

鈴木 ひとみ

SUZUKI Hitomi

①福島県 ②1968年 ③竹田看護専門学校 ④11 kgもあるのに軽やかに歩く愛犬（ポメラニアン）との散歩が最高の癒しの時間です

令和7年4月1日付けで改めて看護部長を拝命いたし、看護部長職4年目を迎えました。

近年の社会情勢の変化は非常に激しく且つ大きく、医療現場も様々な影響を受けてきました。

しかし、世の中がどのように変化しようとも、地域住民個々の心身の健康への願いは不変だと思います。

看護部では、“「生活」と「その人らしさ」を大切にした最善の看護実践”を理念に掲げています。患者さん個々が望む生活の実現に向けて、患者さんの持てる力を引き出しながら回復過程を支援するために、「患者さんの望みは何か」「そのために必要な看護とは何か」を考え、患者さんにとっての最善の看護提供ができるように、専門的知識と確かな腕（看護技術）を持つ看護職の育成に努めています。そして、幅広い知識と技術を持つジェネラリスト看護職とスペシャリスト

である専門・認定看護師、特定行為研修修了看護師、診療看護師達が連携し、多職種と協働した組織横断的な活動によって看護の質を保証し、患者さんの満足に繋がるケア提供体制作りに取り組んでいます。

これらの実現には、看護職員各々が誇りとやり甲斐をもって職務を継続できることが大切です。そのために、多様な勤務形態を採用しWLBの充実に配慮した勤務・労務管理を行っています。また、専門性を高め、自己実現のために必要な時間的経済的支援、機会を提供しています。今後も看護職員が心豊かに働き続けられるよう、職務満足の向上に資する勤務環境づくりに努めて参ります。

当院を選んでくださった患者さんの期待に応える看護提供を目指して、看護部のリーダーとして指揮を執って参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度

学会賞等受賞

CONGRATULATIONS

鈴木 彩花 内科学第一講座
第64回日本呼吸器学会学術講演会 呼吸器病学ことはじめ アナライザーセッション 優秀賞……2024年4月

鈴木 啓介 放射線医学講座 放射線診断学分野
第83回日本医学放射線学会総会 JRS83rd Encouragement Award ……2024年4月

布川 真紀 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……2024年5月

佐藤 久恵 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……2024年5月

丘 敦子 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……2024年5月

會田 晴美 看護部
山形県看護協会感謝状 ……2024年5月

遠藤 順子 看護部
山形県看護協会感謝状 ……2024年5月

鈴木 郁子 看護部
山形県看護協会感謝状 ……2024年5月

塩野 知志 外科学第二講座
32nd ESTS meeting
ESTS - Brompton Prize at 32nd ESTS Meeting
ESTS - JACS at 32nd ESTS Meeting ……2024年5月

小藤 昌志 放射線医学講座 放射線腫瘍学分野
Best Doctors (The Best Doctors in Japan) 2024-2025……2024年6月

村川 美幸 リハビリテーション部
山形県作業療法士会 会長表彰 ……2024年6月

阿部 昂平 外科学第二講座
第111回日本胸部外科学会東北地方会学会賞 ……2024年6月

寒河江拓盛 整形外科
第61回日本リハビリテーション医学会学術集会 若手口演優秀賞 ……2024年6月

坂口 健人 救急医学講座
第46回日本呼吸療法医学会学術集会 優秀演題（医師） ……2024年6月

齋藤 朝子 臨床看護学講座
第11回日本臨床倫理学会 最優秀演題賞 ……2024年7月

伊藤 巧 第三内科
ヤンセンファーマ Site Staff Award 2024 ……2024年8月

青山賀子・大宮美穂・須藤将裕・加藤絵美子 臨床研究管理センター
ヤンセンファーマ Site Staff Award 2024 ……2024年8月

浜本 洋 感染症学講座
2024年度日本細菌学会 小林六造記念賞……2024年8月

西 美智 産科婦人科学講座
第71回北日本産科婦人科学会総会・学術講演会 最優秀演題賞 ……2024年9月

野内 雄介 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
第63回日本鼻科学会 ポスター会長賞 ……2024年9月

横山 龍人 救急医学講座
Best Oral Award, Smart Emergency and Critical Care (SECC) -Best of SCCM Congress 2024 Taipei- ……2024年10月

金子 崇 放射線医学講座 放射線腫瘍学分野
第20回日本粒子線治療臨床研究会 最優秀演題賞 ……2024年10月

伊藤 南 第二内科
第66回日本消化器病学会大会 優秀演題賞 ……2024年10月

上野 義之 内科学第二講座
令和6年度山形県科学技術賞 ……2024年11月

清野 諭 Well-Being 研究所 行動科学部門
第19回日本応用老年学会大会優秀発表賞 ……2024年11月

鈴木 俊紀 病理部
令和6年度文部科学省医学教育等関係業務功労者賞 ……2024年11月

工藤 恵蔵 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会 Best ENTEDer賞 ……2024年11月

棚田 丈雄 重粒子線医学講座（附属病院 臨床研究管理センター勤務）
第44回日本核医学技術学会総会学術大会 若手研究奨励賞 ……2025年1月

片山 れな 整形外科（日本海総合病院）
第18回東北MIST研究会 Best Presentation Award……2025年1月

山形大学医学部東日本重粒子センター
山新3 P賞 進歩賞 ……2025年2月

永田 大和 内科学第二講座
第12回日本消化器病学会東北支部学術奨励賞 ……2025年2月

佐藤 侑羅 内科学第一講座
第120回日本呼吸器学会東北地方会 最優秀演題賞 ……2025年3月

鈴木 彩花 内科学第一講座
第120回日本呼吸器学会東北地方会 優秀演題賞 ……2025年3月

高森 聡 外科学第二講座
第17回日本ロボット外科学会学術集会 優秀演題賞 ……2025年3月

早坂 達哉 麻酔科学講座
第52回日本集中治療医学会 Highly cited article award ……2025年3月

人じん事じ往おう来らい

(R6.5.1～R7.4.1)

年月日	異動前	氏名	異動内容	年月日	異動前	氏名	異動内容
R6.6.1	内科学第三講座 准教授	諏佐 真治	昇任 臨床看護学分野 教授	R7.3.31	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 准教授	鈴木 祐輔	退職（開業）
R6.7.1	（放射線医学研究所）	小藤 昌志	採用 放射線腫瘍学分野 教授	R7.3.31	皮膚科学講座 教授	鈴木 民夫	定年退職
R6.8.1	耳鼻咽喉科 講師	鈴木 祐輔	昇任 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 准教授	R7.3.31	生化学・分子生物学講座 教授	藤井 順逸	定年退職
R6.8.1	耳鼻咽喉科 助教	倉上 和也	昇任 耳鼻咽喉科 講師	R7.3.31	臨床腫瘍学分野 教授	吉岡 孝志	定年退職
R6.9.30	輸血・細胞治療部 講師	東梅 友美	退職（東京都立駒込病院）	R7.3.31	臨床看護学分野 教授	佐藤和佳子	定年退職
R6.10.1	生理学講座 准教授	山崎 良彦	昇任 生理学講座 教授	R7.3.31	医学教育学講座 准教授	中西 淑美	定年退職
R6.10.1	内科学第三講座 助教	高瀬 薫	昇任 第三内科 講師	R7.3.31	外科学第二講座 准教授	中村 潤	定年退職
R6.10.1	第三内科 講師	伊藤 巧	配置換 輸血・細胞治療部 講師	R7.4.1	（東北大学准教授）	風間 理郎	採用 外科学第二講座 准教授
R6.12.1	歯科口腔外科 講師	石川 恵生	昇任 歯科口腔・形成外科学講座 教授	R7.4.1	臨床腫瘍学分野 講師	福井 忠久	昇任 臨床腫瘍学分野 准教授
R6.12.31	遺伝情報解析学 准教授	越智 陽城	退職（神戸大学）	R7.4.1	臨床看護学分野 講師	今田 志保	昇任 臨床看護学分野 准教授
R7.2.1	第三内科 講師	柄澤 繁	昇任 内科学第三講座（糖尿病・代謝） 准教授	R7.4.1	感染制御部 准教授	蜂谷 修	昇任 医療安全管理部 教授
R7.3.1	歯科口腔外科 助教	遊佐 和之	昇任 歯科口腔外科 講師	R7.4.1	感染症学講座 准教授	松壽 葉子	配置換 感染制御部 准教授
R7.3.31	医学教育学講座 教授	佐藤 慎哉	退職（三友堂病院）	R7.4.1	看護部 副看護部長	齋藤 朝子	配置換 臨床看護学分野 准教授
R7.3.31	医療安全管理部 教授	橋本 淳一	退職（公立高島病院）				

編集後記

今回は、重粒子センターの取り組みや脳卒中・心臓病等総合支援センターの開設について、健康アプリ「Well-Being YU」、最新医療に関する内容としてキメラ抗原受容 T 細胞療法や人工関節手術支援ロボット「MAKO」についてお伝えしています。

本院は、高度な医療を積極的、継続的に患者さんに提供する特定機能病院としての役割を果たすとともに、未来の医療を支える人材育成や関連病院とのネットワークのハブ機能など積極的に推進してまいります。

今後とも、本院では、より安心・安全な医療の提供に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします
病院ニュース編集担当 総務課広報担当

